

# 平清盛と源平合戦関連文化財群の調査研究

## 平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

更新履歴

2012.3.6 公開

3.14 更新

### 例 言

1. このリストは、平成 23 年度に兵庫県教育委員会が実施した「平清盛と源平合戦関連文化財群の調査検討」事業において収集した一覧表です。
2. リストに掲載した情報については、県内の市町教育委員会からの提供を受けたもの（平成 24 年 3 月 6 日現在）を基本として、調査検討を実施した関連文化財を対象に掲載しました。
3. リストの取りまとめは兵庫県教育委員会 文化財室が実施しました。収集にあたっては、現地調査ならびに調査検討会での意見・指摘を基に、文化財室で取りまとめたものです。
4. データの利用にあたって、原典の確認を必要とする場合などは、当該の市町教育委員会までお問い合わせ下さい。

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
源平合戦図屏風 一の谷・屋島合戦図	神戸市中央区京町(神戸市立博物館)	「平家物語」に語られる源平合戦の武勇伝やエピソードを屏風の画面に配置して、俯瞰的に描写したものの、右隻には平清盛が源氏方の三穂屋十郎(みほのやじゅうろう)の兜のシロ口を引きちぎるところ、左隻には那須与一の扇の的の場面が描かれる。実際の合戦から400年以上たってから製作されたもので、史実とは異なる可能性がある。		史実系
大輪田の泊(兵庫の津)	神戸市兵庫区新川運河一帯	治承4年(1180)、平清盛が修築した大輪田の泊は、旧湊川河口と和田岬に挟まれた入り江で、現在のJR兵庫駅の東の新川河川のあたりを指す。古代から良好として知られている。しかし、旧湊川の風波で川の堤防がたびたび決壊したため、平清盛は強固な人口島を築造し、港の防波とした。	平清盛	史実系
荒田八幡神社	神戸市兵庫区荒田町3丁目15	平頼盛の山荘があった地域で、治承4年(1180)福原遷都の際には、安徳天皇の行在所(皇居)となった場所とつたわる。	平頼盛 安徳天皇	史実系
安徳天皇行在所	神戸市兵庫区荒田町3丁目15	荒田八幡神社にある。平頼盛(清盛の弟)の山荘で、福原遷都に際して安徳天皇の行宮となったと伝えられている。境内には「史跡安徳天皇行在所址」(側面には「平頼盛山荘址」)、および「福原遷都八百年記念の碑」の石碑がある昭和55年(198)年に福原遷都800周年を記念して神戸史談会によって建立された。	平頼盛 安徳天皇	史実系
雪御所遺跡(雪見御所推定地)	神戸市兵庫区雪御所町2-1	石井川と天王寺川の合流点あたりが平清盛の雪見御所跡といわれている。明治39年(1906)には、湊山小学校の校庭で多数の瓦などが出土した。	平清盛	史実系
雪見御所跡の碑	神戸市兵庫区雪御所町2-1	石井川と天王寺川の合流点にある雪御所町は、平清盛の福原における拠点と伝わる。湊山小学校校庭には、1908年に礎石や土器などが多く発掘されたことを記念して「雪見御所旧跡」の記念碑が建てられ、1912(大正1年)「雪之御所」の字名から町名が付けられた。現在、碑は校庭から北側歩道に面した場所に移された。	平清盛	史実系
楠・荒田町遺跡	神戸市中央区楠町・兵庫区荒田町	神戸大学付属病院の構内より、屋敷を区画したと見られる2重濠が調査された。福原京に関わる貴族の邸宅跡と考えられる。		史実系
古代大輪田泊の石椋	神戸市兵庫区	昭和27年の新川橋西方の新川運河浚渫工事の際に発見された、花崗岩の巨石。工事では、重量4トンの巨石20数個と一定間隔で打込まれた松杭が発見され、経ヶ島の遺材と推定されていた。平成15年、当地から北西約250mの芦原通1丁目まで奈良～平安時代の港湾施設と考えられる大溝ならびに建物の一部が発見され、位置関係から出土した石材は、古代大輪田の泊の石椋(防波堤や波消し、突堤の基礎などの港湾施設)と考えられている。		史実系
経の島(中の島)	神戸市兵庫区	大輪田泊に、港湾施設として築造された人工島。「平家物語」によれば、「一里三十六町」とあり、37ヘクタールと推定されている。「塩榎山」を切り崩し埋め立てたが難工事で、清盛生存中には完成できず、平家政権滅亡後の建久7年(1196)に完成と伝わる。その後の港湾や海岸線の変遷により、その位置は不詳。	平清盛	史実系
祇園遺跡	神戸市兵庫区	平安時代末期の庭園の跡などが発掘調査された。福原京に関わる貴族の邸宅跡と考えられている。		史実系
一の谷	神戸市須磨区一の谷町一帯	寿永2年(1183)の一の谷の合戦で、平清盛の弟である忠度が源氏方の土肥実平に攻められ戦死、源氏方の大勝利に終わった。		史実系
紙本僕書妙法蓮華経	神戸市西区伊川谷町前開224(太山寺)	法華経28巻、無量経3巻、観音賢経1巻、平家一門の納経と伝わるが、明らかではない。国指定重要文化財。現在、大阪市立美術館寄託		史実系
鴨越	神戸市北区	三草山の合戦で勝利した後、一気に平家を追い落とそうとする義経に対し、平教経が夢野北後に陣を構え、平盛俊が明泉寺道で待ち受けた。事前に知った義経は険しい山中を進み、山中から奇襲を画したのが「坂落し」とされる。しかし、その場所は議論が分かれ、鴨越から眼下の古明泉寺を狙ったとする「輪越説」、須磨一の谷をその場所とする「一の谷説」がよく知られている。	源義経 平教経	史実系
大覚寺文書	尼崎市寺町	大覚寺は尼崎市寺町に所在する律宗寺院。鎌倉時代末の1313年(正和2)から近世初頭の1591年(天正19)にわたる58通(うち9通は現在唐招提寺蔵)の文書を有し、1967年(昭和42)兵庫県指定重要有形文化財に指定された。中でも覚一本「平語相伝次第」は、流布本「平家物語」の相伝次第がもっとも詳細に記された文書として有名。近世末に唐招提寺の末寺になったが、多くの文書等が寺外へ流出するなどして消滅したと考えられる。		史実系
大物遺跡	尼崎市南城内10番地の2	大物遺跡第1次調査で、平氏政権期以降、大物が港湾として発達していたことを裏付ける輸入陶磁器や西日本各地産の土器類、経石等が発見された。現在は尼崎市立文化財収蔵庫で収蔵・展示。		史実系
広田神社	西宮市大社町7-7	神功皇后が天照大神の荒御霊を祀って創建したと日本書紀に記されている。鎌倉時代以降は武将の崇敬が篤く、源頼朝は平氏追討を祈願して淡路国広田庄を寄進した「寄進状」が残されている。	源頼朝	史実系
(小松庄)	西宮市小松周辺	平家没官領として「吾妻鏡」に見られる		史実系
野田(松原如来)	西宮市今津野田町	清盛が滞在したと「山槐記」に記される場所。現在地は未詳。	平清盛	史実系
昆陽野(遷都候補地)	伊丹市西域(昆陽寺周辺か?)	治承4年(1180)6月、福原京への遷都計画段階で、候補地のひとつとなる。詳細な場所は不明。		史実系
昆陽野(宿营地)	伊丹市西域(昆陽寺周辺か?)	治承4年(1180)9月21日、平維盛を総大将とする軍勢が福原を出発し、22日に昆陽で宿営、23日京都に入る。宿营地の詳細は不明。	平維盛	史実系
昆陽野(宿营地)	伊丹市西域(昆陽寺周辺か?)	天曆元年(1184)2月4日、源範頼を大将とする源氏の軍勢が昆陽で泊。宿营地の詳細は不明。	源範頼	史実系
印南野の大功田	明石市、加古川市、稲美町、播磨町付近	仁安2年(1167)8月10日の官符で、平清盛に播磨国印南野、肥前国杵島郡、肥後国御代郡南郷・土比郷等を子孫までの大功田として賜った。この大功田は、平家没落後、鎌倉幕府の播磨守護領の中心である五箇荘として、発展したと考えられている。		史実系
印南野遷都計画	明石市、加古川市、稲美町、播磨町付近	治承4年(1180)の福原遷都したとき、平地が少なく(手狭だったため、摂津国昆陽野、そして播磨国印南野に新しい京を造営する話を持ち上がったが、どちらの話も立ち消えとなった。		史実系
林崎三本松瓦窯跡	明石市林崎3丁目	福原京造営の際、当地で生産した瓦が使用された。		史実系
浄土寺	小野市浄土谷町2094	治承4年(1180)、平家の焼き討ちで奈良東大寺が焼失、その再建に動員職として活躍した重源上人は、周辺の東大寺領荘園を再建の経済的基盤とするため、浄土寺を建立した。室内には円形須弥壇の雲座上に5.3mの阿弥陀如来像がある。		史実系
三草山古戦場	加東市三草	平家物語に帰されている源平争乱の古戦場。寿永3年(1184)2月、木曾義仲を討った源義経は平家追討のため平野(現、篠山市)に本拠を置き、三草山を守る平賀盛らと戦った。源義経は兵を率いて夜襲をかけ、平家方は生田の森へと敗走したと伝えられている。	源義経	史実系
在田荘	加西市在田・西在田	清盛の異母弟の平頼盛に与えられた荘園。一ノ谷合戦後、平家没官領となるが、源頼朝の肝煎りで直後に返還され、池家により伝領される。	平頼盛	史実系

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
石部神社	加西市上野町	式内社に比定される神社だが、主祭神は宗像三女神、社伝では奈良時代に三女神を勧進とあるが、池家領期に平家の守り神である厳島神社の祭神を勧進した可能性も考えられる。		史実系
西下郷	加西市下里地区	播磨国守護梶原景時の代官による横領地(平氏没官領への行為と考えられている)のため平家の荘園または権益を有する土地であったと考えられる。	梶原景時	史実系
一乗寺	加西市坂本町	後白河法皇の御願による一切経会を清盛が圓教寺で執り行い、一乗寺・八葉寺にも移されて行われた。	後白河法皇 平清盛	史実系
古網干遺跡	姫路市網干区垣内南町	平安時代後期～鎌倉時代初頭の陶磁器や土器類、木製品が多数出土した。当時の港湾施設に関連する遺跡と考えられる。		史実系
室山合戦跡	たつの市御津町室津山付近	源行家を大将とする3千余騎が播磨に入ったため、平教盛・平重衡一万余騎が室坂で行き会い、合戦が行われた。行家は大敗し、和泉国へ逃亡したと伝えられる。		史実系
賀茂神社	たつの市御津町室津75	高倉上皇が厳島を参詣する際、賀茂神社に参拝したことが「厳島御幸記 高倉院昇露記」に記されている。	平教盛 平重衡	史実系
室泊	たつの市御津町室津	平家が屋島に拠点を移して、瀬戸内海の制海権を握っていた頃、体制の立て直しを図るため、室泊を焼き討ちした。		史実系
進美寺	豊岡市日高町赤崎	建久8年(1197)10月、「五輪宝塔三百基造立供養」が行われたと伝える。願主は但馬国守護であった源(安達)親長で、五輪宝塔造立祈願文には「鎌倉殿の仰せにより、全国8万4000基の五輪宝塔を像流するにあたり、但馬国300基を新美寺で閉眼供養を行う。それは源平内乱で十数万に及ぶ戦没者を慰め、怨を転じて親となそうとする趣意からである」とあり、法句經の經文を引用し「怨親平等」の思想を説いた銘文である。但馬は源平合戦直前まで平家一門の知行国であった。	源(安達)親長	史実系
亀ヶ城跡	豊岡市但東町太田	源行家を討った報償として、但馬の大田荘を与えられた常陸坊昌明の居城とされる。	常陸坊昌明	史実系
福田岡遺跡	たつの市菅田町	12世紀後半の集落跡。筑紫大道沿いの拠点集落と考えられている。		史実系
北野天満神社	神戸市中央区北野町3-12	治承4年(1180)福原遷都の際に、鎮護の神として京都北野天満宮を勧請して祀られたと伝えられる。		福原
東川崎子神社	神戸市中央区東川崎町	平清盛が大和の泊まり(現在の兵庫港)に、国家の安泰と公開の安全を祈って7つの弁天と7つの恵比寿を祀ったとされ、そのうちの1つと伝えられている。	平清盛	福原
厳島神社	神戸市中央区花隈町6-5	もと花熊村にあり天明年間(1781-89)に宇治川河口に移され、弁天町の町名になったが、明治に花隈町に移った。		福原
金光寺	神戸市兵庫区西仲町	ある夜、平清盛の枕元に童子が現れ、「兵庫の海中に霊仏がある。探し出すよ」というお告げがあった。早速海中を探索すると、黄金薬師像が出現、これを本尊として安置したと伝えられている。	平清盛	福原
萱の御所跡碑(葉山寺)	神戸市兵庫区今出在家町4-1-14	萱の御所は平清盛の邸宅で、後白河法王を幽閉したことから「牟の御所」とも呼ばれた。境内の石碑はもとは北新川運河にあり、運河の拡張工事によって水中に没するため、葉山寺の境内に移された。なお、実際の萱の御所の位置は、夢野にあった平教盛邸とする説が有力。	平清盛	福原
厳島神社(神戸市兵庫区)	神戸市兵庫区永沢町4-4-21	治承4年(1180)に平清盛によって建立された。厳島神社縁起によると、平清盛が兵庫の港(大輪泊)に築島をつくる時、ある夜夢に天女が現れ、「私は安芸国厳島明神である。この海を暴風から守り、何時の志を成しめしめんがためにきたのである。厚く信仰して、必ず疑うことなかれ」とお告げになった。早速清盛は、港の守り神として祭神を祀り、社を建てる場所を思案しているとき、夜に龍燈が西方より飛び出し松の枝に引っかかって煌々と光り輝いていたので、この地を厳島弁才天女社としたと伝えられている。	平清盛	福原
平清盛廟(能福寺)	神戸市兵庫区北逆瀬川町1-3-9	仁安3年(1180)に平清盛が出家したときに剃髪した寺だといわれている。養和元年(1181)に京都で没した平清盛の遺言により、能福寺の住職・円実法眼は遺骨を持ち帰り、寺内の八棟寺に墓所として平相国廟を造立したとも伝えられる。しかし平家滅亡後全焼、慶長4年(1599)に明智光秀の家臣長盛法印が再建したとされている。	平清盛	福原
熊野神社	神戸市兵庫区熊野町3-1-1	治承4年(1180)の福原遷都に当たり、王城鎮護のため、紀州熊野権現を勧請して祀ったといわれている。		福原
氷室神社	神戸市兵庫区氷室町2丁目15	治承4年(1180)、平清盛が福原遷都にあたり、兵庫七弁財天の一社として一弁売命を奉斎した。また平教盛がここに別邸を建て、後白河法皇を幽閉したと伝えられる。	平清盛 平教盛	福原
妓王・妓女の塔(来迎寺)	神戸市兵庫区島上町2-1-3	来迎寺境内にあり、平清盛の寵愛を失い、京都・嵯峨野の祇王寺で尼となった妓王・妓女の墓といわれている。	妓王 妓女	福原
大山咋神社	神戸市兵庫区山王町1-6-5	治承4年(1180)、平清盛は福原遷都にともない新内裏造営を藤原邦綱に命じ、その際に大山咋神社も建立されたといわれる。		福原
東福寺	神戸市兵庫区五宮町18	平野の祇園神社の裏山にあったとされる潮音山上伽寺には、清盛が経ヶ島を築く際に、ここで海潮を聞き計画を練ったという逸話がある。東福寺がその後を受けた寺といわれている。	平清盛	福原
久遠寺	神戸市兵庫区門口町4-5	日隆上人が永享年間(1429-40)に建立したといわれるが、「西摂大観」は来迎寺不断院がここにあったとする。		福原
祇園神社	神戸市兵庫区上祇園町12-1	平清盛は、経ヶ島を築造の際、ここにあった山寺で海潮を聞きながら計画を練ったと伝えられている。その潮音山上伽寺は祇園神社の裏山にあったとされる。	平清盛	福原
宝地院	神戸市兵庫区荒田町3丁目17-1	北東に隣接する荒田八幡神社とともに、平頼盛の別荘があった場所とされている。非公開だが安徳天皇の位牌が安置され、弘安二年(1279)に建立されたといわれている。	平頼盛 安徳天皇	福原
七宮神社	神戸市兵庫区七宮町2丁目	創建時期は不明だが、生田八幡神のひとつに数えられ、神功皇后が巡幸されたという。「西摂大観」によれば、羽坂通には平安時代に塩榎山と呼ばれる小さな山があり、平清盛がこの土で経ヶ島を築いた。跡に小さく残った丘陵を羽坂、先端を針ヶ崎と呼んだと記載されている。塩榎山の崖には大己貴命(おこなむちのみこと)が祀られ、神が怒って風波を起こすことから、現在の国道2号線が和田岬方面に分岐する場所に、平清盛が兵庫の築島工事の無事終了を感謝し、社殿を建立したと伝わる。	平清盛	福原
恵林寺	神戸市兵庫区兵庫町2-2-1	平清盛が経ヶ島を作ったときに困難や水難を克服して無事に島ができるように祈って立てられた弁才天の社があり、兵庫津七弁天のひとつ「波除の弁天」と呼ばれている。	平清盛	福原
夢野八幡神社	神戸市兵庫区氷室町	平清盛が福原遷都にさきがけ、都の守護神として治承元年(1177)に創建したといわれている。	平清盛	福原
和田神社	神戸市兵庫区和田宮通	平清盛が経ヶ島を作るときに工事の安全と将来の繁栄を祈願し、安芸の宮島から市杵島姫命を勧請し、7箇所に祀った(兵庫七弁天)うちのひとつといわれている。	平清盛	福原
湊山温泉(平家の湯)	神戸市兵庫区湊山町26-1	治承4年(1180)、福原遷都が行われた頃の中山忠親の日記「山塊記」によると、「本内裏より一丁のところに湯屋あり」と記されている。これは現在の天王温泉(湊川上温泉)・湊山温泉の付近であり、たびたび平家一門が通っていたのでは?と考えられている。湊山温泉は皮膚病・神経痛などに効用がある。	平家一門	福原
魚御堂礎石(阿弥陀寺境内)	神戸市兵庫区中之島2丁目	境内に魚御堂の礎石と伝えられる大石がある。魚御堂は清盛が魚類の供養をしたためとも、清盛の長男・平重盛の仮屋敷跡ともいわれる。	平重盛	福原
来迎寺(築島寺)	神戸市兵庫区島上町2丁目	兵庫区島上町は、平清盛が海を埋め立てて築かせた「経ヶ島」の寄洲の上に来た町といわれる。当町にある築島寺(つきしまでら)正式名称は、来迎寺)は、清盛が経ヶ島を築く時、人柱となった松王丸の菩提を弔うため建立された。境内には、「松王小児入海之碑」、松王丸の墓、清盛の寵愛を受け後に嵯峨野の祇王寺で尼となった白拍子の姉妹、祇王祇女の墓と伝わる五輪塔がある。	平清盛	福原

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
真光寺	神戸市兵庫区松原通1丁目	時宗、宗祖一過上人入滅の地境内に道標の石碑がある。真光寺にかつて竜蔵院大日寺という院があり、「西撰大観」が引用する由緒書には「清盛が経ヶ島を築いた時、大池に住む竜が人を悩ますことから、比叡山の教信に祈らせたところ天に昇り、池を埋め堂を建てた」という伝説を記載する。また清盛が祀った七弁天のひとつ、真野弁天がこの堂だともいう。時宗の開祖、一過上人が入寂した地であり、境内に一過上人御廟がある。	平清盛	福原
満福寺	神戸市長田区海運町4丁目1-1	平清盛が創建したと伝えはあるが、詳細は不明。長楽町4丁目に字福原の地名があり、平清盛が厳島神社に参詣の途上に、この付近に上陸して陸路で向かったと伝えられる。昔はこの辺り一帯を福原と呼び、福原荘発祥の地とも言われる。	平清盛	福原
福原内裏分石	神戸市長田区東尻池町2丁目11-1	宝満寺(ほうまんじ)の山門横にある。寺は元々は兵庫の和田山宇山にあったが、福原遷都の時、東尻池に移ったといわれる。石標の年代は不明。		福原
宝満寺	神戸市長田区東尻池町2丁目11-1	平清盛が福原遷都の際、福原京の西入り口にあたる現在地に移築させたと伝わる。その時に、自筆の「護国殿額」と清盛自身の懐中仏「金胴釈天立像」を祀り、大修理を行ったという。	平清盛	福原
勝福寺	神戸市須磨区大手町9丁目	清盛寄進の伝承を持つ文化財・密教法具があり、寺の衆が経ヶ島の築造に協力をした由縁が伝わる。寛政8年(1796)の「摂津名所図会」では、清盛寄進の大般若経や平知章の甲冑も寺宝にあげられている。	平清盛	福原
毘沙門山 妙法寺	神戸市須磨区妙法寺字毘沙門山1286	治承4年(1180)、平清盛が福原遷都の際、平安京の鞍馬になぞらえて神鞍馬し、福原京の鎮守の地としたと伝えられている。	平清盛	福原
安徳帝内裏跡伝説地	神戸市須磨区一の谷町	安徳天皇の生母は平清盛の娘である建礼門院徳子で、寿永4年(1185)壇ノ浦の戦いで敗れたとき、祖母である二位尼に抱かれて入水されたといわれている。	安徳天皇	福原
法界寺	神戸市須磨区若木町2丁目	もとは兵庫区の西宮内町にあり、清盛が再三参詣したといわれる。区画整理で昭和29年(1954)に現在地へ移転した。現在の寺の位置と経ヶ島との関わりはまったくないが、西宮内町のごころ、当寺に弘法大師作の弁天像が祀られていたことから、平清盛が大輪田の泊の修復や経ヶ島の築造に際して、祈願をした寺と謂われている。	平清盛	福原
坂本丹生神社・明要寺跡	神戸市北区山田町坂本字丹生山384	平清盛が福原に滞在の折、京都・比叡山になぞらえて日吉山権現(大山咋命)を祀って月参りをしたと伝えられ、山王権現と称してきたが、明治2年(1869)に丹生神社と改称した。現在はハイキングコースとしても親しまれている。	平清盛	福原
多聞寺	神戸市北区有野町唐櫃	清盛が遷都のときに、方位除けに毘沙門天を祀ったと伝える。元は六甲山系古寺山にあったが、平家の盛衰と運命をともにし廃寺になろうとしていたものを、寛正3年(1462)現在の地(有野町唐櫃)に移し、建立したと伝える。	平清盛	福原
厳島神社	神戸市灘区篠原北町3-16-7	創建は治承4年(1180)と伝えられる。平清盛が夢に見た「怪光を発する方向」で見つかったとされる「福石」が祀られ、縁結びにご利益があるとして有名。	平清盛	福原
六甲八幡神社	神戸市灘区八幡町3-6-5	治承4年(1180)の福原遷都に際して、平清盛が京都の岩清水八幡宮を勧請したとき、成瀬という地名を八幡に改めたのが起源といわれている。	平清盛	福原
大物主神社	尼崎市大物町2丁目7-6	旧大物町・大物村の氏神。近世には若宮・若宮弁財天あるいは若宮八幡とも称したと伝えられる。祭神は大物主神・端津比売命(たぎつひめのみこと)・市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)・田心比売命(たぎりひめのみこと)とあり、さらに境内相殿社4社をあげている(祭神は現在も同じ)。「尼崎志」は、かつての若宮の主祭神は安芸厳島神社と同じ市杵島姫命であると、さらに若宮の起源は平清盛が大物に勧請(かんじょう)した安芸厳島神社であるという所伝を紹介、考察を加えている。	平清盛	福原
寺江亭跡	尼崎市杭瀬寺島2丁目	平清盛の信頼が厚かった藤原邦綱が別荘があった場所。神崎川河口に設けられ、厳島参詣途上の高倉上皇以下、多くの貴族が立ち寄り、福原遷都の一行も宿泊している。遺構等は明らかにはなっていないが、昭和初年に建立された「立蹟寺江亭趾伝説地」の石碑がある。	藤原邦綱	福原
尾浜宝篋印塔	尼崎市尾浜1丁目4-27	尾浜八幡神社境内にある宝篋印塔は名月姫の墓と伝えられ、平清盛が進めていた大輪田泊修築工事で父親が人柱として捕えられ、娘の名月姫の助命の願いを聞いた清盛の家臣松王丸が身代わりとなったと伝えられる。	松王丸	福原
専念寺	尼崎市寺町12番地	平清盛の子重盛が法然に帰依し、その弟子西仙坊心寂を招いて東長洲の地に一字を建立したのが当寺の始まりとされる。朱色の山門は重盛の菩提所となったためであるともいう。	平重盛	福原
(伏松)	西宮市小松周辺	平重盛が館を構えたとする場所。	平重盛	福原
(御供家)	西宮市小松周辺	重盛の塚と現地の人は伝承しているが誤りと、「摂津名所図会」にある。現在地は未詳。	平重盛	福原
平重盛供養塔	西宮市小松南町(岡太神社)	平重盛が館を構えたとする場所。現在地に移設された。	平重盛	福原
神池寺	丹波市市島町多利2609-1	平重盛の写経を納めた五輪塔などが寺宝としてつたわる。	平重盛	福原
松王丸宝篋印塔	淡路市岩屋	古地誌(味地草)には色々な名称(産湯たらい石・獅子頭・兜石・飛渡り山伏・曇縁)が記されている。頂上には梵字の彫られた宝篋印塔が(侍童松王丸の供養塔)がある。大輪田の泊(今の神戸港)に港を造りたい平清盛は村人を人柱にしようとしたが、清盛の小姓であった松王丸は自分が人柱になり村人を助けた。清盛は朝な夕なに眺めていた淡路島の絵島に松王丸との思い出を秘め宝篋印塔を祀った。	松王丸	福原
木造延命子安地藏菩薩半跏像(長楽寺)	加古川市志方町永室858	平清盛の娘建礼門院徳子の安産を喜んで作成したと伝わる。国指定重要文化財	建礼門院徳子	福原
絵島	淡路市岩屋	岩屋港の東に浮かぶ島で、岩屋港の南東に浮かぶ小島で、「平家物語」の月見の巻に登場し、古くから名所として知られている。砂岩が浸食されてきた奇観のためか、国産み神話の「あのごころ島」をあてる説もある。古来より風光明媚な場所として多くの文学にとりあげられている。絵島の頂上には、平清盛が大輪田泊を修築した時、人柱になった松王丸の供養塔といわれる宝篋印塔(ほうきょういんとう)がある。		福原
河原兄弟墓碑(追谷墓園内)	神戸市中央区神戸港地方、追谷墓園内	河原兄弟の戦死したとされる場所に「河原太郎次郎之塚」と刻んだ石碑があったが、「善照寺文書」によると、文化2年(1805)には文字が読めないほどになっていて、兄弟の子孫と称する京都の河原友七郎実直が再建した。明治12年(1879)ごろ市街化が進み追谷墓園に移転。現在同墓地2区の一、番北端にある。	河原四郎河原五郎	源平
生田神社	神戸市中央区下山手通1-2-1	境内には源氏方の梶原景季の「梅籠(うめいびら)」の碑、弁慶が義経の代わりに参拝した際に奉納したという弁慶の竹などがある。	梶原景季	源平
籠の梅(生田神社)	神戸市中央区下山手通1-2-1	寿永3年(1184)、梶原景季が境内に咲いている梅の花を籠に刺して奮闘したことに由来する。	梶原景季	源平
弁慶の竹	神戸市中央区下山手通1-2-1	弁慶が義経の代わりに参拝した際に奉納したと伝えられる。	弁慶	源平
識訪神社	神戸市中央区識訪山町	寿永元年頃(1182-)源義経が武運を祈ったと伝えられる。	源義経	源平
布引の滝	神戸市中央区真合町	「平治物語」には、清盛の命をねらって失敗し首をはねられた源義朝の長男悪源太義平の霊が、清盛に報復する伝説の舞台として登場する。仁安3年(1168)、清盛が布引の滝を見物に来た際、家臣の難波経房(常俊とも)が雷に打たれ死亡するという筋書き。また「源平盛衰記」には、平重衡の家臣・難波経俊が布引の滝で修行中、滝壺に入り竜宮城に行くという話が載る。	源義平 平清盛 難波経房 難波経俊	源平
梶原二度の魁石	神戸市中央区下山手通(現在行方不明)	梶原父子は「一の谷の合戦」の命運を分けた「生田の森の戦」で奮闘した。平家の陣内に突撃し退却する際、景季の姿がないことに気付いた景時は「子どもが討たれては父が生き残す何になる」と叫んで再び敵陣に突入、景季を救ったとされる。この父子の情にうたれた後世の人が、いつしか城ヶ口(現在の中央区山本通付近)に建てたのが「魁石」。時期は史料などで明瞭でないが、この石が栄光教会前に移されたといわれる。石は高さメートル、横一・五メートル、幅四十センチほどで、表面に「梶原二度 魁石」と彫られている。	梶原景時 梶原景季	源平
河原霊社(三宮神社)	神戸市中央区三宮町2丁目	東城戸の戦いで戦死した河原四郎・五郎兄弟の功績を賞し、源頼朝が報恩寺を建立した。その後三宮の発展で行方不明となったが、地元有志が三宮神社境内に「河原霊社」の小祠(ほこら)を建立した。	河原四郎河原五郎	源平
小野八幡神社	神戸市中央区八幡通4丁目1	一の谷合戦の東城戸の戦いで先駆けし、討ち死にした河原兄弟の菩提を弔う報恩寺の鎮守だったとされる。	河原四郎河原五郎	源平

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
鶴越の坂落とし	神戸市兵庫区(神戸市北区)	寿永3年(1184)、一の谷の合戦の際、源義経が京都・亀岡・篠山・藍那を経て、平家の陣が一望できるところに着き、人馬を休ませ、合戦の作戦を立てたと伝えられている場所。鶴越墓苑の山腹には、「義経の馬つなぎの松」がある。	源義経	源平
鎮守稲荷神社 平経俊の墓	神戸市兵庫区西出町680	平経俊は、平清盛の弟・平経盛の次男。寿永3年(1184)一の谷の合戦で敗れ、逃げる途中で源氏方の名和太郎と組み討ちになり、討ち死にした。	平経俊	源平
通盛・小宰相の局・呉葉五輪塔	神戸市兵庫区松本通2丁目4	平通盛は清盛の甥で、一の谷の合戦で戦死した。小宰相の局は通盛の妻、呉葉は局の乳母に当たる。この五輪塔のある願成寺を中興した住連上人と呉葉が義兄弟であったことから、3人が並んで祀られている。	平通盛 小宰相局 呉葉	源平
平業盛の碑(善光寺境内)	神戸市兵庫区会下山町2丁目	平業盛は勇将として知られた教経の弟で、17歳で一の谷の合戦に参加したが、西城戸の大敗で撤退を余儀なくされ、源氏方の比気(泥屋とも)四郎吉保、弟の五郎重行に討ち取られたといわれている。	平業盛	源平
平業盛塚(善光寺)	神戸市兵庫区会下山町2-18-13	平業盛は、平清盛の弟である平教盛の子で、寿永3年(1184)、一の谷の合戦により17歳討ち死にした。塚は善光寺の境内にある。	平業盛	源平
琵琶塚	神戸市兵庫区切戸町	平教盛の兄で琵琶の名手であった、平経正の墓と伝えられている。明治35年(1902)、琵琶塚の碑が建てられた。「吾妻鏡」経正は、一の谷の戦いで安田義定軍に討たれた。「源平盛衰記」では明石の大蔵谷に逃げ自害したと伝わり、その馬を埋めたところという馬塚旧跡碑がある。	平経正	源平
願成寺	神戸市兵庫区松本通2丁目	「平家物語」によれば、山手を守っていた平通盛は、東に向かい湊川の下で佐々木源三盛綱(木村成綱とも)らに囲まれ討ち死にした。夫の悲報を海上の船中で聞いた小宰相局は嘆き悲しみ海に身を投げた。「摂津名所図会」によれば、この寺の住職だった法然の弟子・住蓮坊が二人の菩提を弔ったという。境内に通盛・小宰相局・その乳母呉葉三人の五輪塔が並んでいる。	平通盛 小宰相局 呉葉	源平
鶴越と石碑	神戸市兵庫区里山町	神戸市が昭和29年(1954)、鶴越墓園南門の出たところに「史跡鶴越碑」の石柱を建てた。「平家物語」では、直線距離でも7km以上離れている一の谷と鶴越を間近にあるように描き、坂落としの場所が長らく論争されてきた。忠度は観念し、念仏を唱えながら討たれたが、艦に「行きくれて 木のなかげを宿とせば 花やこよひの 主ならまし」と書かれた紙切れが結ばれていたと伝えられる。この塚は忠度の切り落とされた腕が埋葬されていると伝えられ、腕・腰・足の痛みがなおると信仰されている。	源義経	源平
駒林神社	神戸市長田区駒ヶ林町3-7-3	寿永3年(1184)一の谷の合戦の際、大輪田から駒ヶ林の沖合いには安徳天皇の御座船と平家総大将である平宗盛が指揮する軍船が停泊していたと伝えられる。	安徳天皇	源平
腕塚堂(平忠度塚)	神戸市長田区駒ヶ林町4丁目5	平忠度は清盛の末弟で、歌道と剛勇に聞こえた武将であった。寿永3年(1184)一の谷の合戦で破れた忠度は、逃げる途中で源氏方の岡部六弥太忠澄と戦い、首を討ち取るうとしたところをその家臣に右腕を切り落とされた。忠度は観念し、念仏を唱えながら討たれたが、艦に「行きくれて 木のなかげを宿とせば 花やこよひの 主ならまし」と書かれた紙切れが結ばれていたと伝えられる。この塚は忠度の切り落とされた腕が埋葬されていると伝えられ、腕・腰・足の痛みがなおると信仰されている。	平忠度	源平
平忠度の胴塚(首塚)	神戸市長田区野田町8丁目	寿永3年(1184)一の谷の合戦で破れた平忠度は、逃げる途中で源氏方の岡部六弥太忠澄に討たれ、この地に胴(首)が埋められたと伝えられている。	平忠度	源平
平盛塚の碑	神戸市長田区名倉町2丁目	平盛俊は、平清盛の政所別当をつとめる平家の有力御家人で、父の平盛国と同じく側近として仕えた。武勇に優れた人物といわれ、寿永3年(1184)一の谷の合戦で平教経・通盛ら当地で布陣をしていたが、源義経の奇襲にあい、猪俣小平六に討たれた。	平盛俊	源平
監物太郎の碑	神戸市長田区四番町8丁目	監物太郎頼賢(頼方とも)は平知盛・知章父子の家臣で、敗走中に知章を助けようと奮戦したが力尽きて討たれたと伝わる。「摂津名所図会」によれば、並河誠所が碑を建立したという。源平勇士の碑から村野高校を隔てて東へ約100mの場所にあり、地元の保存会の人たちによって祀られている。	監物太郎 頼賢	源平
多井畑厄除八幡宮	神戸市須磨区多井畑字宮ノ脇	源義経が祈願したといわれている。	源義経	源平
伝源義経陣太鼓、太鼓の由来(現光寺)	神戸市須磨区須磨寺町1-1-6	「伝源義経陣太鼓」、「太鼓の由来」書が宝物として保存されている。		源平
平重衡とらわれの遺跡	神戸市須磨区須磨寺町1丁目	寿永3年(1184)一の谷の合戦で、平清盛の五男で武勇に優れた平重衡は源氏の軍勢を防ぎきれず、住まいに配達した後生け捕りにされた。重衡は鎌倉に送られ、文治元年(1185)に埋ノ浦の戦いで平家一門が滅んだ後に処刑された。	平重衡	源平
「源平史跡 戦の濱」碑	神戸市須磨区一の谷町5丁目(須磨浦公園内)	寿永3年(1184)一の谷の合戦で、源義経の奇襲作戦により平家は大敗、屋島を目指して舟で退却したと伝えられる。		源平
鉄拐峯	神戸市須磨区鉄拐	「摂津名所図会」によれば、ここが「義経坂落としの場所」と信じられ、坂落とし・巖石落とし・鐘を懸けて鳴らした鐘懸松などの伝承が残る。	源義経	源平
奥畑大蔵神社	神戸市垂水区名谷町3080	寿永2年(1183)一の谷の合戦の際、源義経が参拝したといわれている。	源義経	源平
平師盛の墓(石水寺)	神戸市垂水区名谷町3115	境内には平重盛の第5子である平師盛の墓があるが、現在それを証明するものはない。しかし、寿永3年(1184)名谷の合戦の戦死者を弔う無縁仏五輪塔等が数多くある	平師盛	源平
石水寺(せきすいじ)	神戸市垂水区名谷町3115	平師盛は三草山の戦いで破れ西城戸に落ち延び舟で逃げようとしたが、舟が覆覆し源氏方に熊手で引き上げられ、この地付近で討たれた。	平師盛	源平
金棒池	神戸市西区神出町東	弁慶が雄岡山と雌岡山を持ち帰って箱庭にしようとして、金棒を両方のやなに差し込んで持ち上げたときの足跡が、金棒池の東端の2つの古墳とする伝説がある。	弁慶	源平
藍那の古道	神戸市北区藍那	寿永3年(1184)一の谷の合戦で源義経、熊谷直実らの行軍経路にまつわる「相談が辻」、「椎の木塚」、「熊谷道」などの遺跡地がある。なかでも「鶴越道」、「白川道」は特に有名で、現在はハイキングコースとして親しまれている。「鶴越道」は三木と兵庫の津を結ぶ重要な道路として、人々の往来や物資の運搬が盛んであった。	源義経	源平
下唐櫃山王神社	神戸市北区有野町唐櫃溝ノ下536	寿永3年(1184)一の谷の合戦の際、源義経が戦勝祈願の弓矢を奉納したと伝えられる。	源義経	源平
帝釈山義経道	神戸市北区	藍那から衝原に続く義経道とよばれる古道は、石畳の道から始まる。昔は生活道としてにぎわったが、今はその面影はなく、ハイキングコースとして親しまれている。	源義経	源平
鷲尾氏屋敷跡	神戸市北区山田町東下	寿永3年(1184)一の谷の合戦で、源義経を鶴越まで道案内した鷲尾経春の館があったと伝えられている。この合戦で源義経は勝利し、鷲尾経春は功績を認められて武将となり、領地を与えられた。その子孫は昭和初期までこの地に暮らしていたという。東にある鷲尾山には鷲尾一族の墓もある。	源義経 鷲尾経春	源平
藍那古道	神戸市北区山田町東下～藍那	鷲尾三郎屋敷跡から藍那にかけての山道。義経の行軍の道といわれる。	源義経 鷲尾経春	源平
相談が辻	神戸市北区山田町藍那	藍那古道から鶴越へ出る途中で、どの道を行くべきか相談した場所として伝えられている。左は鶴越方面、右は白川方面で、ここで兵を2手に分け義経は左へ、熊谷直実の別動隊は右へ行軍したといわれている。	源義経 熊谷直実	源平
椎の木塚	神戸市北区	藍那から鶴越へ向かう途中で、軍陣を張った場所と伝えられている。		源平
義経馬つなぎの松	神戸市北区山田町下谷上	鶴越墓園内の高尾地蔵院の中に所在する。鶴越に進軍してきた義経が休憩し、この場所から平家の陣を見下ろし、作戦を立てたと伝えられる。言い伝えの松は、枯れて根だけが残る。案内板も立っている。	源義経	源平

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
蛙岩	神戸市北区山田町下谷上	高尾地蔵院から東南へ約300mほど離れた場所にある。「相談が辻」と同じく鶴越と白川の分岐点にあたり、この場所で兵を分かった。義経が進路を変えたなど、様々な言い伝えが残っている。岩が蛙の形に似ていることから、この名前がついたもの。	源義経	源平
熊谷道	神戸市北区	『平家物語』によると、義経に従っていた熊谷直実・直家が一番乗りを目指して、一の谷総攻撃前夜の寿永3年(1184)、鶴越から白川に抜ける熊谷道を通って一の谷に出たというが、史実かどうか定かではない。	熊谷直実 熊谷直家	源平
十万の辻	宝塚市切畑字長尾山	平家追討のおり、搦手として源義経が10万の兵を連れて通った峠。	源義経	源平
多田神社(史跡多田院)	川西市多田院多田所町1-1	源氏発祥の地にある清和源氏の祖廟。多田行綱は、治承元年(1177)の鹿ヶ谷事件で平清盛に密告。その後源氏側につき、寿永3年(1184)の一ノ谷の合戦で活躍。多田神社は多田氏の本拠地として、その後も源氏の遺称地として信仰の対象となった。毎年4月第2日曜日には、源氏ゆかりの武将の格好で練り歩く「源氏まつり懐古行列」が開催される。現在はハイキングコースとしても親しまれている。	多田行綱	源平
腕塚神社・忠度塚	明石市天文町1丁目1	平清盛の弟、平忠度は文武兼備の名将として知られていた。忠度は一の谷の合戦の際に西門付近を守っていたが、平家軍の敗北によりあらかじめ用意してあった船に乗るべく駒ヶ林(現在の神戸市長田区)に向かって逃走した。その途中で、源氏方の岡部六弥太忠澄に追いつかれ、激戦の末に右腕を切り落とされたと伝える。その供養塔がある。	平忠度 岡部六弥 太忠澄	源平
両馬川旧跡	明石市天文町1丁目1	寿永3年(1184)、一の谷の戦いに敗れた平家軍の逃走経路で、平忠度が岡部忠澄に追いつかれ、2人の乗った馬が川を挟んで戦ったため「両馬川」の名前がついたといわれている。	平忠度 岡部六弥 太忠澄	源平
源平史跡の道	明石市天文町1丁目1	一の谷の合戦で破れた平家は西に逃れ明石にたどり着いたところで源氏の追手に捕まる。山陽電鉄「人丸前」駅の高架下に建てられている。ハイキングコース案内		源平
馬塚旧跡碑	明石市人丸町2	平経正(平経盛息、敦盛の兄)が大蔵谷で討死した際、その馬を埋めたところという伝承がある	平経正	源平
三草山の合戦における平家の敗走路	加古川河口付近(加古川市から高砂市まで)	三草山の合戦(1184)で敗れた平資盛・有盛は、加古川沿いに逃げ落ち高砂からより海路で屋島に渡り逃れた。	平資盛 平有盛	源平
源頼政の墓(長命寺)	西脇市高松町	源氏一族にありながら平治の乱では平清盛に味方した武将。源頼政は後に平家政権に不満を持ち、後白河上皇の皇子である以仁王を奉じて平家追討のため挙兵したが、敗れて京都・宇治の平等院で自害した。その墓と伝えられる祠がある。	源頼政	源平
弁慶の足跡(常連寺跡)	三木市跡部	寿永3年(1184)2月、源義経は平家追討のため1万余騎で三草山に押し寄せ、平資盛など7千騎を打ち破った。敗走する平家を追いかける途中で弁慶が踏みしめたと伝えられる「足跡」が残る。	弁慶	源平
義経道	三木市福井	平家を追う義経軍が通った道として伝承が残っている。	源義経	源平
義経道	三木市細川町瑞穂	平家を追う義経軍が通った道として伝承が残っている。	源義経	源平
篠原神社	三木市口吉川町殿畑	源義経の軍勢が進攻中、先を進む武蔵坊弁慶が神社の鳥居前を駆け抜けようとしたとき、車馬がうすくまってきた。そのとき、従者が「鳥居は神社の神門であり、この神門を乗馬にて通過した不敬お咎めであらう」と云ったので、弁慶がわびると、にわかには馬が進み始めたことと伝えられている。	弁慶	源平
馬止め(うまとどめ)	三木市志染町三津田	平家軍を追う義経軍が、馬を止めて軍評定をしたとされる。このとき、疲れ果てた軍兵に、老婆の差し出す朱塗りの椀に盛った玄米飯に大喜びし、厚く礼をのべたと伝えられている。	源義経	源平
判官神社	三木市志染町三津田	源義経に差し出した大飯の故事にちなみ、判官さん(義経)を祀ったとされている。今年も地元伏山地区(久保昌隣保長、六戸)が十一日に恒例の「大飯講(おおめしこう)」を営む。	源義経	源平
粉喰坂	小野市榎山町	三草合戦後、一ノ谷へと向かう途中、義経一行が榎山町にやって来て、おばあさんからハッタイ粉をごちそうになったという伝承が伝わっている。地元では、義経一行がやってきたという坂を「粉喰坂」と呼んでいる	源義経	源平
国位田碑	小野市榎山町	義経は、ハッタイ粉をごちそうになった礼に、粉喰(国井)という苗字と田の税金を免除したとのこと。この時、免除された田を国位田と呼び、それを示した石碑、「国位田碑」が残されている	源義経	源平
義経の腰掛岩	小野市榎山町	義経が腰掛けて休んだという伝承の大きな岩がある	源義経	源平
亀井ヶ淵	小野市榎山町	義経の家臣、亀井六郎が矢で射るとそこから水が湧き出し、義経一行ののどをうるおしたという伝承がある。	亀井六郎	源平
常光寺の伝承	小野市下来住町	寺が戦に巻き込まれた時、住職が本尊の観音像を抱いて飛び込んだという観音淵や、小僧がつかまり殺されたという稚児谷などの伝承がある。		源平
三草合戦(源平合戦)の平家本陣屋跡	加東市山口	国道372号線が山口地区に入ると、コンクリートの壁に平家本陣を源氏の襲撃を受けている様子が記されたモニュメントがある。		源平
京街道(丹波街道)多田越峠	加東市上鴨川	源義経は、篠山市今田町市原側から上鴨川に向けて夜中に通り抜ける際、周辺の民家や寺等に火を付け、松明代わりにしたと伝えられる。義経が火つけ判官とも呼ばれるようになった。この街道は三草に陣取る平資盛勢を夜襲するため、義経軍が騎馬隊で駆け抜けたと考えられている。	源義経	源平
只越阪	加東市上鴨川	市原から鴨川越えの古道。三草山合戦で使用されたと伝わる。		源平
御所ヶ谷	加東市上鴨川	三草合戦の平家方の陣所という		源平
袴鹿寺	加東市	義経が通ったとする伝承あり。		源平
多賀管六久利	多可郡多可町(安田荘)	平氏によって荘園を横領された多賀管六久利が、義経を一の谷へ道案内したという記録	多賀管六 久利 源義経	源平
鮎川(あいかへり)川の語源	相生市壺根・野瀬	平経盛は、那波浦の東口に那波城を築いた。城内には、真澄(ますみ)という侍女があり、光明山城にいる許嫁と城を抜け出して、鮎川川のほとりにある長持石で出合いを楽しんでいた。寿永3年(1184)、源義経が那波城を攻撃、経盛は雨乞山城に籠り必死に抵抗した。雨乞山城は容易に落城しなかったが、佐方村から来た老婆が義経に城に通ずる間道の出入口を教え、軍兵を間道より攻め入らせたことで落城、平経盛は自害した。その結果真澄と許嫁は離れ離れとなり、村人は2人が出会っていた場所を「違いのり谷」とよび、これが「鮎川」の語源となった。	平経盛	源平

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
壺根の語源	相生市壺根・野瀬	雨乞山城が落城して、平経盛は自害し、脱出した残党も後に捕えられた。経盛と行動を共にしていた相会(相生)の局は、雨乞山城を逃れ、相生湾の西岸にたどり着いたが力尽き、そこで亡くなった。村人は、その地を「つばね」と呼び、現在の壺根(つばね)の語源になった。また、ある貴婦人(局=つばね)の死骸が相生湾の西岸に流れ着き、村人が山上に葬った。その場所は、今でも降る雪が積もらないという。これが局塚(壺根1号墳)で、地元では「おつばねさま」としてまつられている。	平経盛	源平
笛吹山・笛の薬師	篠山市大熊	県立篠山鳳鳴高校がある丘陵一体を笛吹山と呼ぶ。源義経一行が南北二手に分かれ、北を進んでいた義経が途中この地で休息したときに笛を取り出し曲を奏でたところ、東の谷から大鼓の音がし、笛に合わせたことから「笛吹山」、笛を奏でた地の薬師如來を「笛の薬師」と呼ぶようになった。	源義経	源平
春日神社	篠山市小枕	源義経が戦勝祈願のため奉納した鞍を保存している	源義経	源平
馬口池(ばくちいけ)	篠山市小枕	源義経は、何時敵が襲撃しても戦えるよう、春日神社(篠山市小枕)に鞍を奉納して戦勝祈願し、近くの池で馬の口を洗い、水とカイバを与えたところから馬口池と言われている。	源義経	源平
泉の講山(剛山)(いずみのこうざん)	篠山市泉	元暦元年(1184)2月、三草山に向かう源義経一行が四日泉村の南賀寺を詣でた日が寺講の日と重なり、馳走を受けて大変喜んだ。「この東の山はなんと呼ぶ?」との義経の問いに「こうやま」と答えたところ、「本日の寺講を記念して、講山と唱えよ」と言われた。以来、「講山」と呼ばれていたが、その後「剛山」に変化し現在に至っているとの伝説がある。また、義経が「心剛山」と詠んだことから剛山と呼ぶようになったとも言われる。	源義経	源平
名無木	篠山市不来坂字宮ノ谷	丹波誌の記述によれば「不来坂の手前で源義経は休息し、八幡神社に武運長久を祈願して、使っていた鞭を地面に突き刺し合戦に向かった。後日、見事に芽を吹き大木となったが、あるとき暴風によって折れた後も再び芽を出して茂った。誰もこの木の名前を知らなかったため、ななし木と呼ぶようになった」とある。現在その木の子孫が、JR古市駅前存在する。樹種は「ハルニレ」というニレ科の落葉樹である。	源義経	源平
鷲尾三郎義久供養塔	篠山市鷲尾	一の谷への道案内をし、その後義経に従い衣川で戦死した鷲尾良久の遺骨を出身地に送り、村人が祠を建てて祀った場所。現在は供養塔がある。	鷲尾良久	源平
鞍懸山	篠山市小枕	義経が春日神社の前を通りかかった時、馬が立ち往生し、馬の鞍をはずして木に懸けて改めて武運を祈願した。その鞍を懸けた木があった山、神社のあった集落は、このときから鞍懸村と呼ばれるようになったとされる。	源義経	源平
弘誓寺	篠山市宇土	楨ヶ峰の北側にある。義経が三草山に兵を進める際、楨ヶ峰の寺院に平氏の伏兵があると予想して、全坊を焼き払った。後に、再建されている。	源義経	源平
集坂	篠山市住山	村の西にあり、義経が兵を集めた場所といわれる。	源義経	源平
不来坂嶺(このさか)	篠山市不来坂	平氏がこの坂に兵を進めていると源氏側は予想していたが、来ていなかったため、「平氏不来坂」と呼ぶようになり、地名となったといわれる。		源平
会峰	篠山市今田町四斗谷・黒石	義経がここで兵を集めたので、「会峰」と呼ぶようになった山。	源義経	源平
腰掛石	篠山市今田町今田	水無峠にある石で、義経が三草山へ向かう途中、小休して腰掛けたといわれる石。	源義経	源平
只越	篠山市今田町市原	義経が小野原の人家に火を放って三草山に向かったといわれる地。伝承では、義経が「ただやすやす」と越えたので只越と呼ぶようになったという。	源義経	源平
和田寺	篠山市今田町小野原	田代冠者信綱の進言を受けて、三草山の平氏の陣に夜襲をかけるために、進軍の明かりに小野原の民家や山野に火を放った地。寺所有の縁起に、兵乱で焼失したことが書かれており、時期から判断すると、三草山の戦いを指している。		源平
俎板山	淡路市	俎板山は明石海峡を見渡せる最高の位置にあり、古代・中世はもちろん近世においても瀬戸内海の制海権をにぎる重要な地であった。源平争乱の頃、大宮藏人実春という平家の大將がこの地にいたと伝えられている。(鎌倉実記)実春が平家滅亡後どうなったかは定かでない。	大宮藏人実春	源平
「血の涙の滝の水」と「血笹」、淡路・夢舞台	淡路市夢舞台	最後まで戦った武士たちは白波とともに、淡路島へ上陸し後日を期することにした。しかし源氏の追討軍との激しい戦いが、今の「夢舞台」で行われた。それを物語るように近くを流れる川の水は「血の涙の滝の水」、茂っている笹は「血笹」との伝説が今も残っている。		源平
鶴島(弦島)城址	南あわじ市福良	平通盛の弟、能登守平教経が源氏方、鶴島城の加茂冠者義嗣と淡路冠者義久を攻め、義嗣は討ち死に、義久は負傷し捕虜となり、その他130余人が敗死した。	平教経 加茂冠者義嗣 淡路冠者義久	源平
太山寺	神戸市西区伊川谷町前開	後白河・後宇多・崇光の3天皇が行幸し、平家の尊敬も厚く、平家納経や寄進された甲冑などを所蔵している。「播磨鑑」によれば、寿永年間(1182-85)の平氏没落の時、清盛の弟・平教盛の末子が出家しこの寺に隠れ住んだと伝え、密教院がその跡だという。	平教盛の末子	戦後
布袋寺	神戸市北区有野町二郎字宮ノ前	平教経の子孫である宮崎弾正二郎広綱の開基と伝えられ、大永年間(1521-28)に教経の念持仏である聖観音像を祀(まつ)るため、かつての領地であった八多庄(北区八多町付近)を開拓し、二郎(にろう)と名づけこの寺を建立したと伝える。寺には清盛の自画像と伝えられる肖像画「琵琶塚碑面文字の屏風」1923年(大正12)清盛塚移転時に出土したといわれる経石2個が所蔵されている。	平教経 宮崎弾正二郎広綱	戦後
大物浦	尼崎市大物町2-7-6	平氏滅亡後、兄頼朝との対立に敗れた源義経一行が西国へ向けて船出した場所。しかし暴風雨で失敗に終わり、山伏姿で吉野山や境地周辺を逃亡する。この逸話は、後に謡曲「船弁慶」や歌舞伎の「義経千本桜」として、後世に語り継がれている。	源義経	戦後
傳静なごりの橋	尼崎市東本町1丁目(辰巳八幡神社境内)	義経と静が別れのなごりを惜しんだという橋があったといわれる。昭和初年に石碑が建てられているが、現在は東本町1丁目42の辰巳八幡神社境内に移設されている。	静御前	戦後
義経辨慶隠家跡	尼崎市大物町2丁目(大物主神社境内)	大物主神社にある。元暦2年(1185)、春に平家を滅亡させた源義経は、頼朝追討の院宣を手に入れ西海を拠点として対抗すべく、11月5日に大物浦で乗船し明朝船出した。しかし烈しい風浪で押し戻され、一時身をひそめたところがこの社付近だと伝える。義経・弁慶主従の隠れ家が江戸時代にはあり、弁慶がこの家から豆を借りた際の借用書も伝えられている。現在は大物主神社本殿脇に石碑が建てられている。	源義経 弁慶	戦後
宮内氏	尼崎市大物町	義経が西国に下向しようとした時、船人を舟い名を「宮内」に改めさせ、大豆15俵を与える旨の文書を弁慶に執筆させ与えたという。江戸時代、その旧宅跡は謀殺免除となっていた。	源義経 弁慶	戦後
静化粧の井	尼崎市東本町1丁目	静が化粧の水を使ったと伝えられる井戸があったといわれ、現東本町1丁目には旧小字「静ノ井」があった。	静御前	戦後
平清盛の供養塔(善楽寺)	明石市大観町11-8	平清盛の供養塔と伝えられる五輪塔がある。養和元年(1182年)、源平合戦の最中に死んだ清盛を悼み、寺僧が報恩のために建てたという伝承がある。	平清盛	戦後

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
経政神社(平経正但馬守伝承)	高砂市阿弥陀町長尾	一ノ谷の合戦で敗れた、平清盛の甥、平経正が自害した場所という落人伝説地。経正を祀った経政神社が長尾集落の山奥に現存し、集落は但馬守と名づけられている。(真偽は定かでない)	平経正	戦後
来迎寺	小野市市場町	下司氏の一族である善阿が一族の罪を償うために東大寺再建の責任者であった重源上人の弟子となり建立した寺という伝承がある。		戦後
ブツブツ	小野市市場町	下司氏の一族である善阿が一族の罪を償うために修行した場所という伝承がある。「塩の苦行」がなまって「ショノコウ」とも呼ばれている。		戦後
市場南山古墳群	小野市市場町	下司氏の一族である善阿が一族の罪を償うために写経した経巻を納めた経塚という伝承が残っている。		戦後
下三草の"かなし"池・跡	加東市	平家一門のお姫様が悲しみのあまり身を投げたとの言い伝えがある。池は現存していない。		戦後
かなし池	加東市下三草	戦に破れた平家追悼に関わる伝承あり。		戦後
宝篋印塔	加東市下三草	戦に敗れた平家の兵士をねんごろに葬ったと伝わる		戦後
花だんご	神河町川上620(福田寺境内)	毎年8月23日の地藏盆に各隣保で作られ、福田寺境内にある「壇の浦地蔵」に供えられる。「壇の浦地蔵」は「安徳地蔵」とも呼ばれ、壇の浦の戦いで入水した安徳天皇と平家一族の冥福を祈るための地蔵。この地区の人々が平家落人を救済していた伝説から生まれた行事である。地区の組単位毎に餅で花をつくり供えている行事。	安徳天皇	戦後
川上村	神河町川上620(福田寺境内)	川上村の起こりは、平家の落人が住み着いたことによると言い伝えられており、八月二十三日の地藏盆には村人総出で、花だんごを作り壇の地蔵にお供えて安徳天皇をお祀りしている。「とのみね自然交流館」平家そば処「交流庵」などがある。		戦後
壇の地蔵	神河町川上620(福田寺境内 業師堂)	川上地区には平家の落人伝説があり、安徳天皇の冥福を祈り地蔵をつくり祀った。その地蔵を「壇の地蔵」と言っている。		戦後
五六見山(ごろみやま)	相生市野瀬地区	平清盛の8男である平盛高の妻、浅野の方が遺児3人を連れて、周辺の村に隠れ住んだという平家落人伝説がある。現在はハイキングコースとして整備。	平盛高	戦後
小野豆集落	赤穂郡上郡町小野豆	平家の落人が隠れ住んだと言われる集落。上流から茄子のヘタが流れてきたことから、源氏の追手に発見されたという伝承あり。		戦後
ジャンジャン穴	赤穂郡上郡町小野豆	平家の落人が隠れていたという穴		戦後
平家塚(経盛塚)	赤穂郡上郡町小野豆	平経盛を弔ったとされる五輪塔。	平経盛	戦後
尾長谷五輪塔群	赤穂郡上郡町尾長谷	平家の落武者の墓といわれる		戦後
平知盛塚	佐用郡佐用町大畑	平知盛とその家臣らが逃げ込んだという、平家落人伝説が残る。	平知盛	戦後
戸倉峠	宍粟市波賀町鹿伏地区	同地区には現在も「平」姓を名乗る10件ほどの集落がある。また戸倉峠を越えた鳥取県若桜町折あたり集落も、16件ほど「平家」姓を名乗る人がいる。		戦後
母栖村(もすむら)	宍粟市山崎町母栖	平維盛一族落人伝承。一ノ谷の合戦に敗れた平維盛の妻富士局と家来の平満友が逃れ住んだ所と伝えられる。また維盛が隠棲した阿波国には夫栖村があるという。(ただし、維盛は紀伊沖で入水自殺したとされており、夫栖村の存在も確認できない)	富士局 平満友	戦後
大畑	佐用郡佐用町大畑	大畑集落には平家落人が大いに畑を開いたという伝説があり、知盛塚とされる五輪塔は2基が祀られる。		戦後
宇日・田久日	豊岡市竹野町宇日、田久日	但馬海岸道路が開通する近年まで、この地は舟か海岸沿いの険しい山中にある「犬道」と呼ばれる細い山道しか行くことのできない、陸の孤島であった。この地に平家の落人が身を隠したとの伝承があり、「舟隠し岩」がある。		戦後
越中次郎兵衛盛継の供養塔	豊岡市城崎湯島447(四所神社境内)	平家の家人であった越中次郎兵衛盛継は、平家物語「六代被斬」の項に登場する。但馬に逃げ、但馬国城崎郡気比庄の住人気比道弘にかくまわれたとある。気比の地は津井山湾に面した要地で、水軍を擁した豪族であろう。盛継の供養塔は宝篋印塔で、左碑文には鎌倉で処刑された盛継を「城崎土豪某の女、曾て盛継通す。屍を収めて(うすむ、此墓即是なり)」と記している。盛継の妻は宮代将監の娘と伝わり、気比白山神社社殿付近にある宝篋印塔や城崎の盛継塔は、彼女が建立したものと伝えられている。	越中次郎 兵衛盛継	戦後
伝越中次郎兵衛の墓	豊岡市気比、白山神社	平家物語に越中次郎兵衛盛次が但馬豊岡市の気比権守道広の屋敷に隠れていた。伝説ではそれを朝倉高清が捕らえたとする。気比に越中次郎兵衛の墓として伝わる石造宝篋印塔がある。	越中次郎 兵衛盛継	戦後
伊賀谷	豊岡市伊賀谷	平家落人集落		戦後
市谷	豊岡市市谷	平家落人集落		戦後
盛重寺	豊岡市森尾	平盛重(但馬独自の平家子孫の名)が開基	平盛重	戦後
気比	豊岡市気比	平家の侍大将越中次郎兵衛盛継が当地の気比四郎道広の贅になったとされる	越中次郎 兵衛盛継	戦後
景清地蔵	豊岡市気比小字松本	悪七兵衛景清伝説に因む線刻の地蔵があるとされるが、詳細不明	悪七兵衛 景清	戦後
八方竈	豊岡市竹野町田久日	越中次郎兵衛盛継・悪七兵衛景清供養塔と云い伝える。	越中次郎 兵衛盛継 悪七兵衛 景清	戦後
八大荒神	豊岡市竹野町鬼神谷	神社棟札に平姓者名を記し、落人の子孫であるとする。		戦後
三原	豊岡市竹野町三原	平家落人伝承を持つ地名というが詳細は不明。		戦後
川南谷	豊岡市竹野町川南谷小字平家	景清の兄上総五郎兵衛忠光の潜伏地の伝承を持つ	上総五郎 兵衛忠光	戦後
奥須井	豊岡市竹野町奥須井	平忠房に従った飛騨四郎兵衛景久の潜伏地の伝承を持つ	飛騨四郎 兵衛景久	戦後
神原	豊岡市竹野町神原	平忠盛の郎党で知盛と檀の浦で入水した伊賀平内左衛門家長の子孫の居住地と伝える	伊賀平内 左衛門家 長	戦後

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
天滝・横行溪谷	養父市大屋町	横行溪谷には、平家の落人伝説「平家ヶ城跡」がある。一の谷・屋島の合戦でやぶれ、西国から播州を経て但馬に逃げた平家の一団はここで二組に分かれ、ひとつは鳥取へ、もうひとつは平家ヶ城へ向かった。平家ヶ城では、一人の若い娘が数人の兵に守られ休んでいたが、見張り番が討ち死にしたという知らせを受け、もはやこれまでと川に身を投げた死んでしまった。続いて兵たちも腹を切り、自害して結局6人が生き残った。この生き残った人々が、現在の横行集落に住んでいる人々の祖先と言われている。また娘が身を投げた川岸は、「姫が淵」の名で呼ばれている。		戦後
朝倉城	養父市八鹿町朝倉	平家物語によると、越中次郎兵衛盛次が但馬豊岡市の気比権守道広の屋敷に隠れていたと伝える。伝説ではそれを捕らえたのが朝倉高清と伝えられている。朝倉高清は越前朝倉氏の始祖で、これらの功績によって鎌倉幕府の御家人となった。養父市八鹿町朝倉は一族の本拠地であり、その朝倉一族の城が朝倉城である。	朝倉高清	戦後
平家ヶ城、みてが城	養父市大屋町横行	平家の落人が立て籠もったとする城跡。平家ヶ城は横行集落から林道をさらに1km西に入る氷ノ山山系の奥まった岩場で、現地には解説板がある。みてが城は、平家ヶ城の出城となった見張りの砦である。		戦後
御崎平内神社 百手の儀式	美方郡香美町香住区余部御崎	この地には元暦2年・寿永4年(1185)、壇ノ浦の戦いで敗れた平家の残党・門脇宰相教盛を筆頭に流れ着いたと伝えられている。毎年1月28日に平内神社で行われるこの行事は、「源氏の目」(大きな目が描かれた新聞紙大の紙)を祈りを込めながら竹の小弓で射るもの。	平教盛 小宰相局	戦後
御崎	美方郡香美町香住区余部御崎	伊笹岬にある御崎には、寿永3年(1184)の壇ノ浦の戦いで敗れた平家の武将、門脇宰相平教盛を大将とする7人が流れ着き、修験者の助けによって住み着いたといわれている。御崎平内神社には、門脇、伊賀、矢引の3人の平家の武将に扮した少年が的を目標に100本の矢を射る「百手」という行事があり、平家の復興を願うものと伝わる。また「御崎哀歌」という歌の歌詞の中には、「堰の古木に影宿す平家落人物語り」という一節がある。御崎の広場に立つ石碑には、平家村という文字が見える。この地では「平家燕」という特殊な燕が、今日でも栽培されている。	平教盛 小宰相局	戦後
小長辺(こながたわ)	美方郡香美町小代区大谷字小長辺	美方町は古くから小代庄(小代郷)と呼ばれ、平安時代末期には平氏(但馬平氏)の支配を受けていた。標高700mの急峻な地であった小長辺は平家落人の里と言われているが、現在では住む人がなく廃村となった。		戦後
内倉山	美方郡香美町小代区実山	平家の落人が居住していたという天然の祠があり、出土品が多数発掘されたと伝える。		戦後
門脇宰相平教盛の墓	美方郡香美町御崎	教盛の墓石の左横には小宰相局の墓がある。教盛とともにこの地へ落ちて来た。日本海を漂流した一行七人が御崎のある伊笹岬の沖にさしかかった時、一条の煙が見え、訪ねてゆく小さな庵に森浄浄実坊という修験者がいた。一行は浄実坊の勧めに従って土着し、平家再興を計ったと伝えられている。	平教盛	戦後
兵庫県鑑	兵庫県香美町	鑑(よろい)部落にも平家落人の伝承があり、越中次郎兵衛盛継の末裔と称した越中家があると伝わる。	越中次郎 兵衛盛継	戦後
内倉洞穴・内倉観音堂	美方郡香美町小代区実山	朝倉高清はもともと平家に属して一ノ谷の合戦に出陣し、敗戦後は但馬朝倉の屋敷に逃れ、さらに但馬小代の実山の内倉洞穴に逃げ隠れたとする伝承がある。この洞穴の付近には、内倉観音堂があり、朝倉高清が隠れた屋敷跡とも伝えられている。	朝倉高清	戦後
上計・浦上	美方郡香美町香住区浦上	平家残党の伝承、平家谷と呼ばれるところに五輪塔がある		戦後
畑	美方郡香美町香住区畑	壇ノ浦の合戦に敗れた平家の人たちが移り住んだといわれる。山中に「平家ヶ平」「お屋敷」「御所ヶ平」「馬冷し場」などの地名あり。		戦後
土生・本見塚	美方郡香美町香住区土生、本見塚	平家残党の伝承、安徳天皇の供養のための五輪塔があるとの伝承	安徳天皇	戦後
無南垣	美方郡香美町香住区無南垣	平家残党の娘がかくれたという岩穴がある		戦後
大味村(小宰相局の伝説)	美方郡新温泉町境	大味(おおみ)村は、平通盛の妻、小宰相局(こさいしょうのつぼね)が隠れ潜んだという伝説がある。小宰相局は、壇ノ浦で敗れた後、平教盛らとともに兵庫県香美町にある御崎へ舟で漂着し、さらにこの地へ隠れ潜んだと伝わる。	小宰相局	戦後
宝篋印塔	美方郡新温泉町三尾	安徳天皇を供養して建立されたという伝承がある。		戦後
三尾八柱神社「のぼり」	美方郡新温泉町三尾	三尾(大三尾)の八柱神社には、平家の幟旗と同じ、赤い幟が代々伝わっている。		戦後
竜坊温泉	篠山市後川神田	寿永3年(1184)2月、一の谷の戦いに敗れた平家の落ち武者が隠れ里にして、戦の傷を癒し薬師堂を建てたと伝えられている。現在も、五輪谷・竜谷に平家一族の五輪塔が残っている。付近にあった大徳寺・福泉寺の2つは、竜坊を入浴療養者に宿坊として利用させたところから温泉の名がついたとされている。		戦後
霊輝山瑞祥寺	篠山市井串17	那須与一が天引峠を越えた後、急病になり、観音寺の本尊観世音菩薩に祈願したところ、快癒したという伝承がある寺。	那須与一	戦後
大岳寺跡	篠山市奥畑	義経が頼朝と仲たがいがいた後、篠山市鷲尾出身といわれる、鷲尾三郎義久の導きで多紀連山三岳に潜伏したという伝承がある。	源義経 鷲尾三郎 佳久	戦後
伊勢三郎の供養塔	篠山市西浜谷	義経に従って多紀連山三岳に潜伏し、その後病死したとい伝承があり、その供養塔。	伊勢三郎	戦後
高山寺	丹波市氷上町常楽46	天平宝字元年(757)に法道仙人によって開基され、源頼朝の命により東大寺住職後乘坊重源が復興した名刹。昭和33年(1958)に現在の位置に移築した。	源頼朝	戦後
首切地蔵尊	丹波市山南町谷川山田	寿永3年(1184)平家が都落ちして、関わりのあった公卿や姫君たちは京都から丹波へと逃げ延びたが、落人狩りによって捕らえられ、首切沢で処刑された。里人たちがこれを悼んで、碑をたて弔ったのが始りと伝える。		戦後
静の里公園	淡路市志筑795-1	志筑は、静御前が隠棲した土地と伝えられる。	静御前	戦後
平家供養塔	淡路市楠本	兵庫県あわじ花さじきの「希望の丘 展望デッキ」の裏手に存在する石造物。平通盛の供養塔といわれ、一の谷の合戦に敗れた後、この地に逃れ果てた主従を供養するためつくられたと伝わる。一ノ谷の合戦で破れた平家は船で屋島へ逃れたが、平通盛は数名の家来と領地であった淡路へ上陸し兵を休めた。しかし源氏の追討軍に追われ現在の「夢舞台」あたりで激しい戦いがあった。「ミチモリさん」と呼ばれる供養塔は辺りに隠れ住んだ家来が大将であった平通盛や一門の供養をするため造ったものと言われている。	平通盛	戦後
別所	淡路市岩屋(別所)	一ノ谷の合戦で破れ、源氏の追討軍に追われた平家の落人を親身になって別所の人々を手当をした。この地に隠れ住んだ落人たちは山間から見ると一ノ谷を見ていただろう。その後村人達は、別所の人達をお守りくださるようお願いを込めて山に散らばっていた六地藏(一石五輪塔)を共同墓地に祀った。		戦後
源平合戦に使った熊手		壇ノ浦の合戦に敗れた平家の残党は傷ついた体を引きづりながら淡路島を逃げた。その背には熊手を持つ者もいた。八郎久範もその一人であった。その後逃れてきた岩屋で綱元として井筒屋での役割を果たした。子孫は家宝となっていた熊手を学習教材として小学校へ寄贈した。		戦後
源義経の墓・静御前の墓	淡路市志筑802-1	花崗岩製の宝篋印塔2基。右側は相輪が九輪の四輪目の上から折れて欠失している以外は各部そろっている。現高131cm。基礎は後補。基礎は原初形式の二段式で、県下では珍しい貴重な資料。正面だけに輪郭付格狭間入りで、他の3面は素面である。造立時は五尺塔であろう。左側は相輪の九輪七輪目で折れているが各部完存。総高127.1cmの四尺塔。基礎は反花形で、複弁一葉の左右に間弁を配し、隅も複弁を刻出する。各面輪郭付格狭間を入れる。銘文は無し。塔身の四面に径16cmの月輪内に金剛界四仏の種子を配する。右側は源義経、左側は静御前の墓と伝える。	静御前	戦後

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
小宰相局供養碑	南あわじ市伊加利	伊加利・津井・阿那賀地区の境にまたがる山地は多摩(ダム)と呼ばれ、そこには平家七つ塚と呼ばれる積石塚がある。建立年代はわからないが、平家の落人の供養碑と伝えられており、最も大きい船型の塚は、平通盛の夫人小宰相局の墓であるといわれている。平通盛の妻小宰相は夫の戦死を聞き、海に身を投げたと伝えられ、毎年4月18日にお局塚供養が行われる。	小宰相局	戦後
煙島	南あわじ市福良	平家物語で語りながれている「敦盛の最期」にゆかりがあるとされている。煙島の由来は、平敦盛の遺骸を奈昆にふした煙から由来すると言われている。	平敦盛	戦後
敦盛神社	南あわじ市福良	船から上がり鳥居をくぐるとすぐに187段の急な石段がある。登りつめると、両側に元禄11戊寅年(1698)正月の刻字のある石灯籠が一对あって、正面に巖島神社造りの社殿がある。安曇(あずみ)の海人がこの地へ移動してきた時、筑紫宗像の三女神たる海神の市村島比売の神霊を奉養したとの伝承や、平重盛がこの地へ来た時、安芸の官島の巖島神社の分霊を勧請したとも伝わっている。	平敦盛	戦後
敦盛塚(煙島)	南あわじ市福良	一ノ谷の戦で熊谷次郎直実に平敦盛が討たれた。直実は敦盛の首を義経に奉り、夜に紛れて船に敦盛の死骸を乗せ、福良浦に身を隠す敦盛の父、平経盛に遺体を届けた。経盛は煙島で敦盛の遺体を奈昆にふし、その時の煙が煙島の由来となった。煙島の頂上、神社の南に建てられていて敦盛の首塚と言われている。中には赤褐色の烏帽子型の石が、円座のような石の上に安置されている。	平敦盛	戦後
梶原五輪塔	南あわじ市沼島	沼島の神宮寺の墓地内に所在する擬灰岩製の五輪塔。総高1.37mを測り、県指定有形文化財に指定されている。地元では古くから梶原景時の墓と伝えられている。	梶原景時	戦後
滝勝寺	神戸市中央区熊内町2丁目	かつては「布引の滝」の麓にあり、多くの支坊を持っていたが大正9年(1920)に現在地に移転した。「兵庫名所記」によれば、源義平の像を安置していたといっている。	源義平	その他
清盛塚十三重塔	神戸市兵庫区切戸町1-3	養和元年(1181)、京都で亡くなった平清盛の遺骨を円実法眼が持ち帰って山田の法華堂に納めた「吾妻鏡」にあり、山田を和田の誤りと考えた説では、この塚を墓所に比定していた。しかし大正12年の調査で、墳墓でないことが判明している。弘安9年(1286)の銘を持ち、神戸市電の道路拡張工事で現在地に移ったもの。	平清盛	その他
兵庫木遣音頭	神戸市兵庫区西出町	治承4年(1180)、平清盛が福原京を造営したときに大輪田泊を開き、建築用材を運んだ際に、地元の人々が木遣音頭を歌い、踊り囃したことに始まるとされている。		その他
天王温泉	神戸市兵庫区上三条町	平清盛が「雪見御所」から北の「湯屋」に行ったらと記録にあるのは、この地とする説がある。中山忠親「山樵記」治承3年(1179)6月の記録には「本内裏より一丁のところに湯屋あり」と記され、平家一門が訪れていたのではないかと考えられている。近年廃業となった。	平家一門	その他
天照山明泉寺(大日寺)、平知章の墓	神戸市長田区明泉寺町2-4-3	境内奥に平知章の墓がある。寿永3年(1184)一ノ谷の合戦で敗れた知章は、父である平知盛、家臣の監物太郎頼方と敗走中にこの地で源氏方に囲まれ、知盛を逃がして監物太郎頼方と戦い討死した。墓地にはその様子を描写した平家物語の一説が掲示されている。	平知章	その他
平盛俊の墓	神戸市長田区庄山町3丁目	平盛俊の墓を堂内に祀る。五輪塔は室町時代のものといわれている。	平盛俊	その他
神戸水天宮	神戸市長田区長田天神町5-5-1	寿永4年(1185)、壇ノ浦の戦いで崩御された安徳天皇を崇敬する人々により、大正3年(1914)にくるめ鎮座の水天宮を誓願して附属講社を起し、大正12年(1923)に現在地に本殿を建立した。	安徳天皇	その他
源平合戦勇士の碑	神戸市長田区四番町8丁目	寿永3年(1184)一ノ谷の合戦で討死した平通盛、源氏方の木村源吾と猪俣小平六則綱らの碑がある。後に平知章の碑がこの地に移り、源平とわず勇士の碑としてあわせて祀ると伝えられている。	平通盛 木村源吾 猪俣小平六則綱 平知章	その他
蓮の池	神戸市長田区	「摂津名所図会」には平重盛の家臣・蓮池家綱の戦死した場所由来として「蓮池」というとある。昭和6年(1931)に埋め立てられ、市民運動場になった。	蓮池家綱	その他
安徳宮	神戸市須磨区一の谷町2丁目6	安徳天皇をお祀りした神社。須磨浦公園北の急な坂を登ったところ(一ノ谷町)にある。	安徳天皇	その他
須磨寺	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	寿永2年(1183)、一ノ谷の合戦で源氏方の熊谷二郎直実に打たれた平敦盛の首塚や義経腰掛の松がある	熊谷直実 平敦盛 源義経	その他
須磨寺宝物館	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	「青葉の笛」、「敦盛の木造」、「平敦盛公の像」、「一ノ谷合戦屏風錦絵」、「義経一ノ谷より、平家を攻める図」など源平関係の宝物が展示されている。		その他
源平の庭	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	寿永2年(1183)一ノ谷の合戦において、平敦盛と熊谷二郎直実の一騎打ちを再現した庭。当時16歳の敦盛が、一ノ谷の浜辺で直実に討たれる話は、平家物語の名場面として古来より語り継がれている。	平敦盛	その他
敦盛首塚	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	寿永2年(1183)、一ノ谷の合戦で源氏方の熊谷二郎直実に打たれた平敦盛の菩提を弔うために建立されたもの。	熊谷直実 平敦盛	その他
義経 腰掛の松	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	寿永2年(1183)、一ノ谷の合戦の後、源義経がこの松に座って平敦盛の首と首を実検したと伝えられる。	平敦盛 源義経	その他
弁慶の鐘	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	寿永2年(1183)、一ノ谷の合戦の後、弁慶がこの鐘を長刀の先に掛けて担いできて、陣鐘の代表にしたといわれている。	弁慶	その他
敦盛公 首洗いの池	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8	平敦盛の首を洗った池とされている。	平敦盛	その他
敦盛塚	神戸市須磨区一の谷町5丁目(須磨浦公園内)	須磨浦公園の西、国道2号線沿いにある大きな五輪の石塔で、高さ3.5mにもなる。平敦盛の胴体が納められた供養塔といわれてきたが、北条貞時が平家一門を供養するため、弘安9年(1286)に建立し、「あつめ塚」といわれていたのが、「あつめ塚」となったという説もある。	平敦盛	その他
北向厄除神社/那須神社	神戸市須磨区妙法寺円満林	寿永4年(1185)、屋島の戦いで「平家方の戦場の軍扇を見事に打ち抜いた」と「平家物語」に記されている弓の名人、那須与一が、北向厄除八幡神社を守護神として合戦にのぞんだと伝えられている。御礼のため、再度参詣に訪れたが、病にかかり、この地で死去したという伝説があり、那須神社境内には那須与一の墓がある。	那須与一	その他
浄福寺	神戸市須磨区須磨寺町1丁目	「摂津名所図会」によると、久寿年間(1154~56)に源頼政が再建したといわれ、通称・頼政薬師。源頼政は治承4年(1180)、以仁王と平家打倒のため挙兵したが戦死した。	源頼政	その他
舞子公園	神戸市垂水区東舞子町	この地の風光をめでた平清盛が浜で宴を催し、女兒を舞させたため「舞子の浜」と呼ぶようになったといわれている。現在は松林が広がり、雄大な明石海峡と淡路島を眺めることができる。	平清盛	その他
福田寺	神戸市北区山田町東下	山田の鷲尾氏の菩提寺で、本堂には「鷲尾氏位牌の間」がある。寺の横瓦は、鷲尾家の家紋である日の丸扇になっている。「摂津名所図会」によれば、「義経から日の丸の軍扇が与えられたことから、これを家紋にした」とある。	鷲尾氏	その他
清盛五輪塔	神戸市北区有馬町1643(温泉寺境内)	有馬町温泉寺にある清盛ゆかりの五輪塔。清盛が有馬を訪れたという記録はないが、温泉に残る五輪塔のひとつは「清盛の五輪塔」と伝えられる。	平清盛	その他
生田祭神幸式	神戸市内各地	総勢1000人を超える時代行列からなる、猿田彦神役を先頭に、源平合戦の際に活躍した源氏方の武将・梶原景季、獅子舞、子供神輿(小学生)、お稚児さん、御輿(150名以上の男性が勇壮に練り歩く)が、2kmにわたる。現在では、中央区・兵庫区を11地区に分割し、11年に1回の当番で行っており、地域に根付いた市民参加型の祭り。		その他
名月姫物語の伝説	尼崎市小浜町1-4名月公園内	平家が隆盛を誇った時代、刑部左衛門国春が子供を授かるよう月に祈ったところ、ほどなく女の子が生まれ、名月姫と名づけられた。姫は美しく成長、その評判は都にまで届くほどであった。	刑部左衛門国春 名月姫	その他

平清盛と源平合戦関連文化財群 調査票

名称	所在地	説明	人物	分類
尼崎新能	尼崎市大物町(大物川緑地・野外能舞台)	謡曲「船弁慶」で源義経と静御前の別れの場として有名な大物を舞台に、毎年8月5日に開催。	源義経 静御前	その他
管弦町	尼崎市大物町1丁目	現大物町1丁目の旧小字「管弦町」は、大物に留まっている義経のつれづれを慰めようと静が宿で音楽を催したことにちなんで呼ばれるようになったといわれる。	源義経 静御前	その他
大覚寺	尼崎市寺町9番地	平家一門の栄華と没落を描いた「平家物語」の語り本系統に属する「覚一本平家物語」の成立に関わる文書を所蔵。		その他
梅の本	尼崎市西難波町5丁目	応神天皇以来、梅の名所として知られ、現西難波町5丁目の熊野神社がある旧小字「梅ノ本」は武蔵坊弁慶が梅の枝を折れば指を切るといふ制札を立てたところと伝えられる。	弁慶	その他
松原神社	尼崎市浜田町1-6	主祭神素盞鳴命のほか崇徳天皇を祀られている。讃岐に探される途中に身を寄せたことから当地に祀られるようになったとされる。	?	その他
ぬえ塚	芦屋市浜芦屋町5番	源頼政が京の都で怪物・鶴(ぬえ)を射殺し、流された死体が漂着した地に築かれた塚。	源頼政	その他
清荒神清澄寺	宝塚市米清シ1	源平合戦の兵火により焼失したが、建久4年(1193)源頼朝によって再建された。	源頼朝	その他
中山寺	宝塚市中山寺2丁目11	治承・寿永の乱で、源氏による焼き討ちにより焼失した記録あり。		その他
平清盛の化身話	宝塚市米谷字清シ1	清澄寺の僧・尊慧が閻魔宮の法草絵に招かれたがさらに往生をすすめるため許され蘇生した際、平清盛が天台宗の高僧慈慧の化身であると閻魔王に教えられた話が「冥途蘇生記」にあり、これが「平家物語」に取り入れられ普及した。	平清盛	その他
満願寺	川西市満願寺町7-1	安和元年(968)、多田源氏の祖といわれる源満仲が摂津多田に本拠を構え、この寺に帰依した。以後、元治一問の崇敬を集めたとされている。	源満仲	その他
小童寺	川西市西畦野1-7-1	源満仲の末子である源賢僧都は、幼名を美女丸と呼ばれていた。美女丸が十五歳のとき、学問を怠ったことから満仲が怒り、重臣の藤原仲光に美女丸の首を切れと命じた。しかし仲光は、自分の子である幸寿丸の首を切つて満仲に差し渡し、美女丸を逃がした。これを聞いた美女丸は出家し、幸寿丸をとむらうため小童寺を建立したと伝わる。	源賢僧都	その他
頼光寺	川西市東畦野2-17-2	源満仲の夫人である法如尼の発願で、子の源賢僧都(幼名美女丸)によって創建されたと伝わる。昭和49年に本堂を再建した時に寄贈を受けた「あじさい」が有名で、梅雨時ともなれば、500株ものあじさいが色鮮やかに咲きほこる。	源賢僧都	その他
那須与一石棺仏	加古川市東神吉町	小型の家型石棺の蓋を利用した地藏菩薩石棺仏(室町時代?)で、那須与一として信仰され、拝むと長患いをしなむといわれている。	那須与一	その他
謡曲「野口判官」	加古川市野口町野口	源義経は衣川合戦に戦死せず、鞍馬の犬に助けられ、空を飛び乗物で播磨国野口の里に飛来し、入道して教信上人と号し教信寺を建立したという物語。	源義経	その他
「那須与一さん」石棺仏	加古川市東神吉町神吉	この地藏菩薩立像石棺仏は、屋島の合戦で平氏方の軍船に掲げられた扇の的を射落としたことで知られる那須与一の墓と伝えられ信仰されている。拝むと長患いをしなむといわれている。	那須与一	その他
那須与一墓	高砂市阿弥陀町阿弥陀1956(不断寺境内)	不断寺裏の阿弥陀4号墳頂部にある石仏を、那須与一の墓と呼ぶ。真偽は定かでない。	那須与一	その他
弁慶の清水	三木市細川町瑞穂	武蔵坊弁慶が呪文を唱えながら薙刀(なぎなた)の石突で岩を突いたところ、清水が湧き出てきたと伝えられている。	弁慶	その他
弁慶の捨石(弁当)	三木市和田	武蔵坊弁慶が弁当を食べていたとき、飯粒の中に混じていた石を、ポイッと捨てたものと伝わる。	弁慶	その他
弁慶の重ね石	小野市榎山町	腹いっぱいになった弁慶が石を投げて重ねたという伝承の大きな岩がある	弁慶	その他
白拍子さん	小野市池尻町	平家の公達を追って、一人の白拍子がやって来ましたが、会うことができず、なき続け死んでしまいました。村人たちは哀れに思い墓をつくってやりました。その墓という祠が残っている。		その他
下司館跡	小野市市場町	平重衝の命により東大寺に火をつけた下司次郎太夫の館跡という伝承がある。焼き討ち以後、仏罰により下司の一族は、病氣や苦難が続いたという。	下司次郎太夫	その他
弁慶の力石	加東市山口	弁慶が杓丈で突いたといわれる円形の窪みがある。元は旧道にあったものを、三草山合戦平家本陣跡(上三草)の横に移動させたという。またもともと石は横向きであったものを、垂直に立てたらしい。	弁慶	その他
下三草薬師堂にある五輪塔群	加東市	(平家ゆかり?)		その他
弁慶の墓盤	加東市平木1169(清水寺)	弁慶が墓盤の石を墓盤に埋め込んだという伝承がある	弁慶	その他
弁慶の力石	加東市馬瀬地内	弁慶が薙刀の石鏃を立てた際に出来た穴がある	弁慶	その他
百旗墓地	加東市社	三草合戦に由来する墓地跡との伝承あり。		その他
北条節句祭り屋台	加西市	歴史的な関連は無いが、祭り屋台の幕や狭間の題材に、平清盛や源平合戦を題材にしている屋台が数多く存在する。		その他
書写山円教寺	姫路市書写2968	乱暴者として恐れられていた弁慶は、書写山で静かに修行に励んだと伝えられている。弁慶が顔に落書きされて覗き込んだとされる「弁慶の鏡井戸」や「護法石(弁慶石)」「弁慶のお手玉石」などがある。	弁慶	その他
清盛塚古墳	姫路市山田町北山田	清盛の墓との地元伝承	平清盛	その他
菖蒲墓と早太郎	赤穂郡上郡町西野山	源頼政の妻菖蒲御前と家来猪早太郎を祀った石碑	菖蒲御前 猪早太郎	その他
妙楽寺	豊岡市妙楽寺86-1	頼朝・義経・弁慶の書状を所持していたが、焼失した旨を伝える藩への上申書	源頼朝 源義経 弁慶	その他
安徳天皇古跡	豊岡市日高町上郷	幕末の地図に「安徳帝古跡」「伊東墓」の記載あり。	安徳天皇	その他
比叡寺	豊岡市日高町垣54	平治の乱で、平清盛の軍勢に困まれた源義家の子孫延朗が居住したとされる寺。	源延朗	その他
平家の里(平家そば)	美方郡香美町香住区余部2980	平家の落人が住み着いたという伝説を持つ集落で、作られているそば、つるつると舌ざわりが良く繊細。		その他
板仕野	美方郡香美町岡区板仕野	郡主神社(県)に平重盛の木造がご神体としてある(伝)	平重盛	その他
誓願寺	篠山市魚屋町45	「源平合戦之図」「六枚折屏風二双」などが保管されている。源平合戦の山の戦い/海の戦いが、一雙づつ描かれている。		その他
龍蔵寺	篠山市真南条上1474	寿永2(1183)年木曾義仲が西走する平氏勢を追討した兵乱により焼失。元治5年(1189)再建された。	源義仲	その他
開鏡山観音寺	淡路市開京	境内に、宇治川の合戦で佐々木四郎高綱がのった名馬「生月」の出生地を記す碑がある。急斜面が多い開鏡で馬を育てていた善兵衛さんは名馬「生月」を使者の命により源頼朝公に差し上げた。その「生月」は宇治川の戦いで大活躍をする。木曾義仲軍を打ち負かした功績をたたえられ生月を育てた善兵衛さん共々語り継がれていくよう記念碑が建てられた。		その他
宇治川先陣争いを織り込んだ禮尻幕、岩屋・中之町の禮尻	淡路市岩屋神の前	毎年5月と9月の第2日曜日、石屋神社、八幡神社の春夏の例祭が行われ氏神例祭には必ず御輿と禮尻が出御して町を賑わす。各町の禮尻それぞれに特徴があるが、中でも中之町の幕は「宇治川先陣争い」は勇壮である。名馬「生月」も描かれている。		その他